

SARANIP

No. 14

市立函館博物館館報

1975. 12. 1

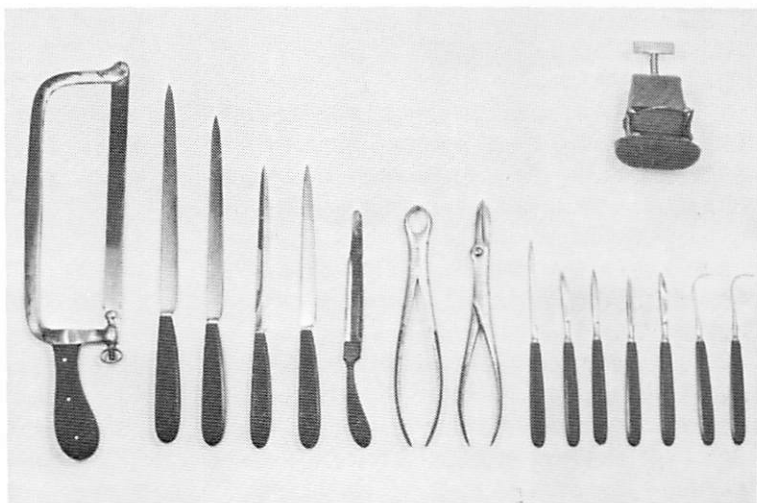
箱館戦争資料 (その2)

高松凌雲使用 の外科器具

わが国の近代医学の伝習は、安政4年(1857)オランダ軍医ボンベにより本格的に行なわれ、洋書の翻訳と相まって広く普及をみたが、医療器具は入手困難で極めて貴重なものであった。

この外科器具は、慶応3年(1867)高松凌雲が松平民部大輔に随いヨーロッパに留学し、フランス「オテル・デユ」病院で臨床医学を学んだ時購入したものである。

帰朝後、榎本釜次郎等と行動を共にし、箱館病院長となり、ヨーロッパで得た知識と、持ち帰った外科器具で、銃創・金瘡その他病者の治療に務めた。その数は1,340名にのぼり、平癒したもの1,061名、なかでも明治元年の戦いで重傷を負った官兵を治療し、平癒後青森へ送り返したことは日本に於ける赤十字精神の始めといわれる。



箱館戦争時使用 フランス製箱入



箱館戦争時使用 イギリス製箱入

「開港五稜郭築城関係資料調査」について

この調査事業は、昭和46年度より3か年にわたり実施された「箱館戦争資料調査」のあとを受けて計画されたものである。

すでに第1回として、昭和49年度柏崎、新潟、横浜、下田にある開港関係資料の調査を実施し、その成果は昭和51年度特別展を開催し、広く市民に還元してゆく予定である。

昭和50年度は、開港・五稜郭築城へと踏み切りざるを得なかった北辺の危機の様子と、そしてそれに対処していった松前藩・幕府・東北諸藩の努力の跡を探ることとし、特に東北諸藩のうち仙台・南部両藩関係資料の所在とその内容確認調査を実施した。

ロシアの南下政策による北辺の危機は、18世紀中葉から幕末、明治初年にかけて一貫して蝦夷地、箱館に横たわる主要問題であったが、ここでは紙幅の都合もあるので、とりあえずその沿革にふれることによって調査の意義を述べることとする。

本来、松前・蝦夷地の警備は松前藩の任務であったが、アイヌの反乱等事変が生じた際は、松前の小藩のみでは足りず東北諸藩の応援を必要とした。

文化3年(1806)ロシア人が樺太に來航し久春古丹の松前藩会所を襲い翌4年もエトロフ島を侵攻、幕府の官船を焼くに及んで俄かに北辺の危機は激化した。

箱館奉行羽太正義は東北諸藩に出兵を命じ、南部・津軽・秋田・庄内四藩の総勢3,000名は漸次箱館に到着し、各要所の警備にあたった。

同5年も、幕府は南部・津軽二藩に加え、仙台・会津藩に蝦夷地警備を命ずるとともに、翌6年からは、南部・津軽二藩を蝦夷地に常駐警備させることとなった。

一時北辺の危機が去った文政4年(1821)東西蝦夷地を松前氏に復領して警備にあたらせるとともに、南部・津軽両藩兵を撤収したが、安政元年(1854)ペリー來航により、箱館開港が決定すると、再び翌2年幕府は蝦夷地を直轄し、松前藩をはじめ津軽・南部・秋田・仙台四藩に蝦夷地警備を命じた。

各藩の警備は別表のごとく実施されたがなにぶん遠隔地ゆえ、勤番の藩士の苦勞も多く各藩の財政をも逼迫させた。

そのため安政6年(1859)幕府は、先の四藩に加え庄内・会津両藩に対して蝦夷地を分轄し領分として給与することになった。

このように、初期においては緊急時の派兵のみであったが、次第に常駐化し、さらには分領による警備へと変化した。こうした東北諸藩の努力は、明治元年箱館戦争の勃発により警備地を放棄するまで継続されたもので、北海道や函館の歴史に占めるウエイトは大きいものがある。

さて、東北諸藩の蝦夷地警備の実態を知るには、東北各県の関係機関に所蔵されている資料を調査することにあるが、本年度は先にも述べたように、仙台藩・南部藩関係の資料の確認につとめた。

仙台藩については、仙台市立博物館、宮城県立図書館所蔵の「伊達家文書」中に、それらの資料を発見できた。その内容については最近佐藤一宏氏によって詳細に研究されているのでここでは省略する。

南部藩については、盛岡市立郷土史料館に約80種に及ぶ関係文書、絵図類を確認することができたが、同資料の内訳は寛政から文化年間にわたるものと、安政2年以降のものに大別されるが、なかでも特徴的なことは、「箱館陣屋図」をはじめ「蝦夷地各陣屋図」等絵図類約30点が含まれていることである。

また、南部藩では北辺警備のため、その財政的負担は著しく、いきおい領民への過重負担となつてあらわれ農民一揆発生の一つの要因にもなっている。

こうした傾向は、南部藩のみならず東北諸藩一般にいえることと思われるが、いずれにせよ、北辺警備は幕府・松前藩は勿論東北諸藩及びその領民層の過重な負担によって成り立っていた。

北海道内の市町村史編纂の動きと相まってこれら東北諸藩による蝦夷地警備の実態が解明されつつある(「北海道の文化」20所載)が、来年度は関係市町村の協力を願って資料の収集につとめるとともに、本年度確認した東北関係資料を写真複製し基礎資料の充実をはかりたい。

以上調査作業の中間報告となったが、いずれ五稜郭分館における箱館戦争のみの偏重的展示型態から幾分でも脱却し、函館の歴史の諸段階をわかりやすく理解できるようにしていきたいものである。

〈学芸員：柴田幸生〉

※参 考

「東北歴史資料館研究紀要第1巻」所載 東蝦夷地仙台藩陣屋考—白老元陣屋・エトロフ出張陣屋—
安政2年東北四藩警備状況

藩 名	警 備 地	元 陣 屋	出張陣屋	分 屯 所
南 部 藩	箱館表、恵山岬〜梶別、東蝦夷地一帯の応援	箱 館	室 蘭	砂 原 長 万 部
津 軽 藩	千代ヶ岱〜恵山、乙部〜神威岬、西蝦夷地一帯の応援	千代ヶ岱	寿 都	
仙 台 藩	白老〜知床岬、国後、択捉	白 老	根室、梶別、泊	
秋 田 藩	神威岬〜知床	増 毛	宗谷、白主、 久春古丹	

今年度の市民講座から

一面白い講座への反省—

「船簞笥」や「ひげべら」の話、遺跡の見学などアカデミックな講座が企画され開催されました。しかし参加者が非常に少なかったことを残念に思うとともに、当館としても反省をしています。今年度は「民俗」として『アイヌのひげべら』、「美術」として『船簞笥』『考古』として『函館空港遺跡見学会』を行ない、「歴史」として『箱館戦争—青森側から見た—』を予定しましたが、参加者が少なく中止になりました。

さて、博物館の活動でこのような講座は、他の社会教育機関と異なり、博物館資料などの実物を中心として進めるもので、博物館員または研究者が博物館の建物の中で行なうのが原則です。今年度はその基本にそって、内容はできるだけわかりやすく、また面白い実地見学など取り入れました。またアンケートを参考にし、広報にも力を注ぎましたが、例年に比して参加者が減ったのは何が原因であるか皆目わからない状態です。

ただアンケートの中に少数意見として、会場が遠い、内容がむずかしい、面白くない、時間帯が悪いなどの意見があり、来年度の企画にはでき得る範囲で考慮に入れさせてもらいたいと思っています。

ただ市民講座の中で当館友の会と共催した「磯の生物観察会」、「赤川の男爵イモを掘る会」、「こどもの雪まつり」などが大変な人気で1日を家族そろって楽しみ学んでもらったことは、当館としても催しがいがあるものでした。

＜学芸員：岡田一彦＞

最近受入れた資料

天保通宝(2)寛永通宝(7)他 8点 17点
 【佐藤ツメ氏寄贈 函館市弁天町10-4】
 木製陳列ケース 1個
 【近江太郎氏寄贈 横浜市港区日吉本町1892】
 氷水ガラス容器
 吹ガラス薄青白色網目文様他 2点 3点
 【原キセ氏寄贈 函館市大森町17-8】
 型ガラス白色ダイヤ型 1点
 【吉川よし江氏寄贈】
 型ガラス薄青色花卉型 1点
 【山本あい子氏寄贈】
 型ガラス乳青色底部花卉型 1点
 【大須賀一也氏寄贈 函館市松風町7-10】
 型ガラス透明ガラス鉢型 1点
 【青原殿寄贈 函館市谷地頭10-12】

型ガラス透明ガラス鉢型 2点
 【珍来殿寄贈 函館市松風町3-20】
 型ガラス上部乳青色ぼかし 1点
 【渡辺硝子店殿寄贈 宝来町8-8】
 型ガラス透明ガラス亀甲型他 9点 10点
 【辰巳食堂殿寄贈 函館市松風町13-3】
 型ガラス黄緑色花卉型 1点
 【渋谷俊一氏寄贈 上磯町昭和町29】
 型ガラス透明ガラス花卉型他 1点 2点
 【西里基太郎氏寄贈 上磯町昭和町8】
 型ガラス上部乳白色ぼかし底部花卉型 1点
 吹ガラス上部赤白網目文様他 3点 4点
 【川尻ミツ氏寄贈 函館市宝来町2-5】
 型ガラス薄青色亀甲型他 1点 2点
 【大石允氏寄贈 函館市松陰町9-32】
 型ガラス透明ガラスダイヤ型 1点
 【吉川よし江氏寄贈】
 型ガラス上部乳青色亀甲型他 1点 2点
 【島尻弘子氏寄贈 函館市亀田港町417】
 型ガラス上部乳青色花卉型他 1点 2点
 【小野寺好一氏寄贈 函館市松風町2-13】
 型ガラス透明ガラス花卉型他 1点 2点
 【熊谷稔氏寄贈 上磯町本町73】
 型ガラス上部乳青色緑色八角型他 1点 2点
 【工藤都氏寄贈函館市赤川町164-35】
 型ガラス透明ガラス花卉型 1点
 【浪月堂書店殿寄贈 函館市末広町7-9】
 型ガラス薄青色18花卉型 1点
 【森竹三郎氏寄贈 上磯町本町168】
 型ガラス乳青色花卉型他 2点 3点
 【計良ツル氏寄贈 函館市本町21-6】
 江戸歴(合本) 1冊
 明治略本歴(合本) 1冊
 明治34歴(東京帝国大学) 1通
 【住吉キノ氏寄贈 函館市堀川町17-7】
 石器(12×3, 12.5×3.5, 8.7×2.0) 3個
 骨角器(釣針) 1個
 【藤井武治氏寄贈 函館市日吉町4丁目9-29】
 提灯(丸型) 2個
 【熊沢清八郎氏寄贈 函館市青柳町15-2】
 火鉢(角型紫檀)他32点 33点
 【小島守夫氏寄贈 函館市鍛冶町87-56】
 蓄音機(昭和10年前後) 1個
 レコード 91枚
 【佐藤広吉氏寄贈 函館市宝来町9-7】
 映写機(35mm) 2個
 フィルム(35mm) 2本
 【菊地勝夫氏寄贈 函館市末広町18-3】
 絆纏(裾63cm背丈84cm(寄斎藤)
 染込木綿製 2点他34点 36点
 【斎藤啓次氏寄贈 函館市日吉町1丁目5-2】
 呉服太物用荷車(明治30年代) 1台
 【松橋多惣治氏寄贈 函館市弁天町12-6】

博物館日誌抄

(50.1.4~8.31)

- 50.1.4 御用始め
 〃 石川館長、岡田学芸員、友の会主催「タイ国博物館めぐり」の参加者引率
 25 第5回冬の公園と博物館で遊ぶ会開催(1月25日~1月26日の2日間)
 2.6 阿部主事、小林主事の後任として本館配置替えとなる
 13 開拓記念館為岡進氏「函館焼き」の陶器撮影のため来館
 22 石川館長、広尾町へ郷土史研究会講師として出張(2月24日まで)
 26 馬場コレクション整理報告書第1集完成300部
 28 森川主事札幌市へ小規模博物館研修会出席のため出張
 3.1 小林主事本日付にて退職
 4 上の国教育長青柳隆氏他1名来館
 5 千代主任岩手仙台東京へ空港事務打合せのため出張(3月14日)
 8 市民講座(生態)講師宗象和彦氏
 11 道史編集所所長松山氏他1名来館
 13 文化庁大島氏、道教委藤本氏外5名来館
 16 不言派無想庵流茶会開催
 23 青年センター茶会開催
 24 千代主任上の国町教委より勝山館復元調査専門員に依頼される
 4.1 新規採用者飯田すみれ分館に配属される
 3 姫野学芸係長特別展資料借用交渉のため東京東北出張(4月8日まで)
 9 岡田学芸員特別展資料借用のため東京東北へ出張(4月17日まで)
 12 NHK教養部報道(スポットライト担当)中田整一氏資料撮影のため来館
 19 市民講座(生態)講師宗象和彦氏
 23 石川館長道博協役員会出席のため札幌市へ出張(24日まで)
 5.1 交通局村山氏外1名記念乗車券の発売の件で来館
 2 家具の博物館小泉和子氏特別展指導講師として来館
 3 市民講座(美術)講師小泉和子氏
 5 S T Vカメラマン特別展風景撮影のため来館
 10 科学教室(天体)講師津川軍次郎氏
 11 市民講座(美術)講師宮下正司氏
 17 市民講座(植物)講師乳井、宗象両氏
 〃 道新論説委員鈴木茂氏新任挨拶のため来館
 18 市民講座(美術)講師永田富智氏
 24 上磯町教育長平沼一二氏外4名来館
 25 市民講座(美術)講師小泉和子氏
 26 NHK T Vが特別展の撮影を行なう「道南の窓」に紹介
 30 特別展記念乗車券発売(友の会事務局)
 31 読売新聞記者立体写真機の撮影のため来館
 6.3 指定文化財の視察のため、市長、教育委員、文化財調査委員、教育長他19名来館
 4 監査のため監査委員山崎氏外7名来館
 4 石川館長、渡辺庶務係長、岡田、柴田両学芸員北海道博物館大会出席のため福島町へ出張(6月6日まで)

- 7 科学教室(天体)講師津川軍次郎
 9 渡島教育局長同次長着任挨拶のため来館
 14 市民講座(生態)
 25 大日本茶道会流茶会開催
 6.15 青函市民文化交流視察団施設見学のため来館
 〃 青年の家研修施設見学のため来館
 30 特別展日本海文化展終了
 7.5 森川主事岡田学芸員特別展借用資料の返納のため東京東北へ出張(7月14日まで)
 〃 科学教室(天体)講師津川軍次郎
 10 北海道博物館協会事務局開拓記念館から当館に移転
 12 市民講座(生態)講師乳井林両氏
 19 科学教室(植物)講師宗象和彦
 20 市民講座(男爵イモを掘る会)赤川水源池にて参加者200名
 〃 利休正伝宗偏流茶会茶会開催
 23 はこだて出版記念会駅前五島軒
 27 市民講座(民俗)講師馬場脩氏
 29 科学教室(植物)講師宗象英雄
 30 科学教室(昆虫)講師中島康二
 8.1 市民講座(磯の生物観察会)尻尾海岸にて
 3 市民講座(民俗)講師馬場脩氏
 5 科学教室(昆虫)講師中島康二
 7 大河社会教育部長新任挨拶のため来館
 10 市民講座(民俗)アイヌコタン実地見学会講師馬場脩氏
 15 市民講座(考古)空港遺跡実地見学会講師千代肇氏
 30 博物館協議会委員加藤進一、五十嵐哲也、水谷吉四郎 3氏発令される
 〃 科学教室(天体)講師 津川軍次郎

入館者統計

昭和50年度常設展示 <50.7.1~50.11.30>

月別	館別	本館			分館			郷土資料館			総計
		個人	団体	計	個人	団体	計	個人	団体	計	
7	大人	506	73	579	14,170	4,412	18,582	465	6	471	19,632
	小人	309	682	991	1,211	712	1,923	258	108	366	3,240
	計	815	755	1,570	15,381	5,124	20,505	723	114	837	22,912
8	大人	1,294	0	1,294	20,203	1,768	21,971	501	8	509	23,774
	小人	853	183	1,036	3,168	111	3,279	579	114	693	5,008
	計	2,147	183	2,330	23,371	1,879	25,250	1,080	122	1,202	28,782
9	大人	534	25	559	10,766	1,841	12,607	430	94	524	13,690
	小人	309	412	721	1,024	1,238	2,262	286	167	453	3,436
	計	843	437	1,280	11,790	3,079	14,869	716	261	977	17,126
10	大人	175	0	175	3,107	693	3,800	119	0	119	4,094
	小人	64	205	269	239	20	259	68	0	68	596
	計	239	205	444	3,346	713	4,059	187	0	187	4,690
11	大人	113	24	137	1,871	263	2,134	180	0	180	2,451
	小人	165	0	165	179	0	179	55	0	55	399
	計	278	24	302	2,050	263	2,313	235	0	235	2,850
累計		4,322	1,604	5,926	55,938	11,058	66,996	2,941	497	3,438	76,360

(本館・分館は有料入館者のみ)

Hakodate City Museum News

SARANIP—サラニッパー No.14 1975.12.1発行
 編集・発行 市立函館博物館(T E L 0138-23-5480)
 北海道函館市青柳町・函館公園内(〒040)